

総合的な学習の時間学習指導案

広島市立己斐中学校

指導者 ○○ ○○

- 1 日 時 令和〇年1月〇日(〇) 14:00 ~ 14:50
- 2 場 所 己斐中学校 体育館
- 3 学 年 第2学年全3クラス
- 4 主 題 名 「ヒロシマが世界に伝えるべき平和」を語れる生徒の育成 ~校内の文化的平和を通して~

5 単元について

(1)単元 の 目 標

「平和」という大きなテーマをもとに、生徒自らが答えの用意されていない問いを見だし、より適切な手法を用いて必要な情報を集め、一枚のポスターにまとめ、発表する活動を通して、ヒロシマが世界に伝えるべき平和をどのように継承するのか、そのためには自分自身の行動には何が必要なのかを考えることができるようにする。

(2)単元設定の理由

本校では、「豊かな心を持ち、主体的に判断・行動し、課題を解決する力を持った生徒の育成~当たり前のことが当たり前でできる生徒の育成~」を学校教育目標に掲げ、誰一人取り残さない学校づくりを目指している。本校の生徒は、落ち着いて学校生活を送ることができ、素直に指示に従うことができるが、自分の意見を持ち、自分の意見を仲間に伝え、課題解決のために仲間と考え、仲間を巻き込み行動する力が弱いという課題がある。そのような課題を克服するため、「何事も挑戦できる生徒」「自ら判断ができる生徒」「自分の気持ち、考えを語ることができる生徒」を目指す生徒像に掲げて、各教科で「単元課題の設定」を設定し、探求型の課題を意識した授業づくりを実践したり、自分や仲間の良さを認識できるような道徳教育や行事の取組および振り返りを系統的に実施したりしている。

平和学習においては、昨年度は「ヒロシマの思いを世界へ~仲間との関わり合いを通して~」という研究主題で、平和公園を訪れた外国人観光客や留学生の方々に行ったアンケート調査を分析する活動を通して、平和な世界を実現するための考え方や方法が異なる人々に対して、ヒロシマの願い・思いを伝え、共感を促すための平和アピールを製作する学習を行い、「原爆のおそろしさや被害の様子を伝えたい。」「世界で起こっていることについて他人事ととらえず、関心を持つ。」など「伝えたい」「知りたい」という意識に少なからず高まりが見られた。一方で、生徒の日常の中で、何がどのように平和に繋がっているのかを意識させるために、文化的平和を構築する土台をより発展させていかなければならないという課題があった。

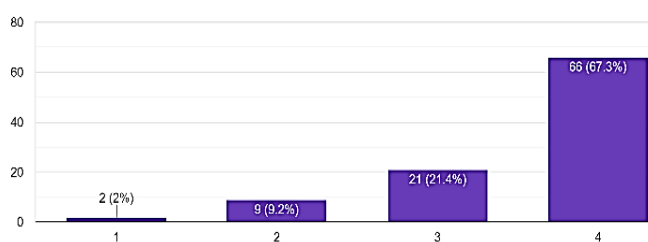
2学年については、5月に「アフターサミット見学会」に参加し、6月に平和記念公園周辺でのフィールドワークにおいて、碑巡りと原爆遺構巡りを行い、8月6日には全校生徒で「ひろしま子ども平和の集い」へ参加し、他府県や他都市の同じ年代の子どもたちの平和に関する取組や平和のメッセージを聞くなどの活動を通して、平和意識の向上を図ってきた。学習前に実施した平和学習意識調査では、広島に投下された原子爆弾のことや平和への思い、被爆者の願いを後世に継承することは大切だと答えた肯定的回答は多かった。

その一方で、平和学習意識調査では、「『ヒロシマが世界に伝えるべき平和』について語ることは大切だと思う」という質問に対する肯定的回答が88.7%だったのに対して、「『ヒロシマが世界に伝えるべき平和』について語ること

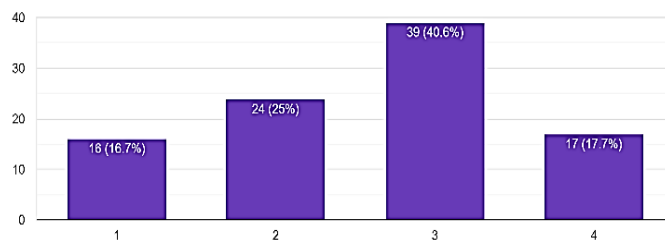
ができる」という質問では、肯定的回答が58.3%と大きく下がっている。このような結果から、平和意識は向上しているものの、生徒が自発的に取り組めていないため、平和に対する主体性が欠けているという課題が推測される。

こうした背景から、グループごとに、平和という大きなテーマのもと、答えの用意されていない問いを自ら設定し、その問いを探求するために必要な調査活動を行い、その調査結果を整理・分析した結果をポスターにまとめ、ポスターセッションという形で地域住民や保護者、1学年生徒に表現する場を設定することで、生徒の主体性・他者と協働して取り組む力の育成を目指し、「ヒロシマが世界に伝えるべき平和」をどのように継承するのか、そのためには自分自身の行動について何が必要なかを考えることができるようにする必要があると考え、本単元では、中学校学習指導要領第7章総合的な学習の時間の学習指導 第1節学習指導の基本的な考え方 1 生徒の主体性の重視 にもあるように、「学び手としての生徒の有能さを引き出し、生徒の発想を大切に、育てる主体的、創造的な学習活動を展開する」ことを意識して単元計画を考えた。

「ヒロシマが世界に伝えるべき平和」について語ることは大切だと思う
98件の回答



「ヒロシマが世界に伝えるべき平和」について語るができる
96件の回答



(1・・・当てはまらない 2・・・あまり当てはまらない 3・・・だいたい当てはまる 4・・・とても当てはまる)

(3) 単元の指導の流れ

本単元では、まず日常や社会に目を向け、自分たちの考える平和とは何かを考えさせる。次に、自分の考える平和、他者の考える平和を交流し、各学級の考える平和について考え、それらを大切にできるような行動の変容を促す。

その後、広島大学大学院の中矢礼美教授や株式会社ソアラサービス代表取締役の牛来千鶴氏から、それぞれ「明日の平和な世界を創るために」「中学生にもできる平和なこと」を主題に講話をいただき、平和についてこれまで学んできたことや、まだ知らないことを学習するとともに、平和のために自ら何かしようとする意欲が高まるような時間を設定した。

平和に関する研究テーマについては、様々な思考ツールを用いて決定し、リサーチクエスチョン（課題研究全体で明らかにしたい問い）を導き出しやすいように留意した。

決定したテーマやリサーチクエスチョンを基に仮説を立て、適切な調査活動を選択し、研究計画書を作成したのち、調査活動を行う時間を設定した。その際に、課題の解決に必要な情報を収集しやすいように、校外でのインタビュー調査やアンケート調査を実施したり、校内の教職員や他学年、他クラスの生徒を対象にしたアンケート調査を実施したりできるように配慮した。

これらの調査活動によって収集した情報を整理・分析し、ポスターにまとめさせる。特に、調査結果と分析（なぜそのような結果なのか、それは平和をつくる上でどういう意味があるのか）を関連付けて整理できるように視点を与えながら指導していく。

本単元のまとめでは、地域住民や保護者、1学年生徒を招き、ポスターセッション会という形で表現する場を設定し、他者に伝える活動を計画する。その際に、聞き手の表情を見ながら、説明を加えたり、かみ砕いて説明したりして、聞き手の理解が深まるように工夫しながら、相手意識や目的意識を明確にして説明できるように指導する。

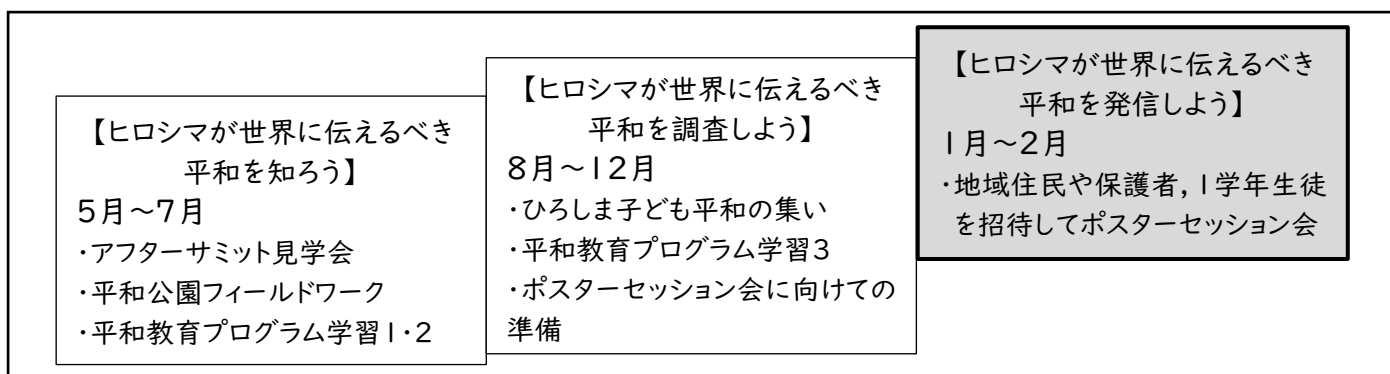
(4) 年間指導計画における位置づけ

本校では、「平和教育プログラム」を基盤とした平和教育カリキュラムを構成している。平和教育プログラムの学習1では、被爆の実相を継承していくことにどのような課題があるのかを学習し、学習2では世界の人々の「平和」や「核兵器」に対する考えや思いを読み解き、広島市民として世界の人々へ発信すべき思いを考え、学習3では、広

島の中学生として、世界の人々へ発信する平和メッセージを考えさせた。

また、ひろしま平和ノートを活用した授業と並行し、5月～7月にかけては、アフターサミット見学会の参加や平和公園フィールドワークを実施し、8月～12月では、8月6日に実施された「ひろしま子ども平和の集い」へ参加した。特に「ひろしま子ども平和の集い」では、同世代の子どもたちが全国から集まり、広島で発信する姿、内容を見て聞いて、平和意識の向上を図った。

それらの学習を踏まえ、本単元のまとめとしてポスターセッション会を設定することとした。これまでの学習で得た知識や思考したことなどを土台としながら、改めて自らが疑問に思うことを問いとして設定し、調査活動を行い、調査活動の結果を分析し、ポスターにまとめ、聞き手の理解が深まるように工夫しながら説明するなどの探究的な学習の過程で得た資質・能力は、進級した3学年時のみにとどまらず、AIやロボット技術の革新、グローバル化の進展など変化が激しい社会において、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくために重要な力であると感じている。



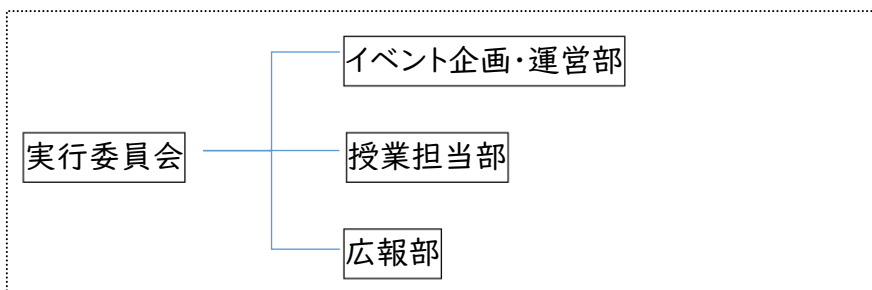
(5) 本校で育成しようとする資質・能力

主体性	何事も挑戦できる力	自ら課題を見つけ、自分事として課題解決に取り組むことができているか
表現力	自分の気持ち、考えを語るができる力	目的や相手に応じて自分自身の考えをまとめ、適切な方法で表現し、聞き手の理解が深まるように工夫しながら説明できているか
協働性	課題解決のため、仲間と考え、仲間を巻き込み行動する力	仲間や他人のことを考え、仲間や他人のために自分ができることを実行できているか

(6) 平和学習実行委員会

本校2学年生徒について、周囲を引っ張るリーダー的な存在が少ないという実態から、自分たちのアイデアや提案を実現するためのリーダーシップを発揮する場面や他者と協働して主体的に取り組む機会を設けることで、その委員を中心として「平和」への意識の向上を図りながら協働でプロジェクトを計画して実行することを目的とした平和学習実行委員会を設置した。

具体的には、週に1、2回ほどそれぞれの部署で委員会を開き、ポスターセッション会当日の進行を考えたり、地域住民や保護者への広報活動を行ったりする活動を通して、コミュニケーションのスキル向上を図ったり、「平和」の在り方を理解する場を設定した。



各部署	主な業務内容
イベント企画・運営部	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターセッション会当日の進行表、会場等の企画・運営。 ・ポスターセッション会当日に司会係、案内係、受付係等の役割を担う。 ・ポスターセッション会終了後に、この一年間で学んだ「平和」について総括を行う。
授業担当部	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターセッション会当日までの、「総合的な学習の時間」の在り方について協議・運営。 ・授業で使うワークシートの検討会議の参加。 ・授業中に困っているグループがあれば補助。 ・各クラスでの授業の進捗状況を報告する。 ・各グループが作成するポスターの準備。
広報部	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターセッション会の広報活動を行う。 ・案内のプリントやポスターの作成・配布。

(7)単元の評価規準

単 元 名	単元の評価規準		
	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【ヒロシマが世界に伝えるべき平和を発信しよう】	<p>① 「ヒロシマが世界に伝えるべき平和」について、これまでの学習を振り返り、広島の中学生として発信すべきことがあることを理解している。【知識】</p> <p>② 目的に応じて、適切な方法で効率的に調査活動を行っている。【技能】</p> <p>③ これまで学習した内容に加えて、自分たちで設定した問いに対して探究し続ける学習によって、自分たちの生活と深く関わっていることに気づいている。【探究的な学習のよさの理解】</p>	<p>① 「ヒロシマが世界に伝えるべき平和」について、自らが問いを設定し、解決のために具体的な取組について、見通しを持って計画している。【課題の設定】</p> <p>② 自らが設定した問いについて、目的に合った方法を選択して、情報を収集している。【情報の収集】</p> <p>③ 収集した情報を、他者に自分の考えが伝わるように、目的に合わせて分類したり、効果を意識して表現方法を考えたりしている。【整理・分析】</p> <p>④ 自ら設定した問いについて、目的や相手に応じて自分自身の考えをまとめ、適切な方法で表現している。【まとめ・表現】</p>	<p>① 探究活動を通して、自分のよさや他者のよさを生かしながら、学び合おうとしている。【自己理解・他者理解】</p> <p>② 自らが設定した問いについて、異なる考えのよさや他者の考えを受け入れ、参考にしようとしている。【主体性・協働性】</p> <p>③ インタビュー調査やアンケート調査の分析結果から、これからの平和な世界の実現を視野に入れ、今後の学習や生活に生かそうとしている。【将来展望・社会参画】</p>

6 指導と評価の計画（全23時間）

時数	目標	学習内容・学習活動	知	思	主	評価方法
1 ～ 2	平和学習の見直しを持たせる。	・平和に関するアンケート(Google Form)やガイダンスを行い、今後の活動への見直しを持つ。				
3 ～ 7	平和に関する、答えの用意されていない問いを見出すことができるようにする。 【課題設定】	・専門家を外部講師に招き、平和に関する事情を聞く。 ・平和という大きなテーマをもとに、自分たちが考える問いを見出し、課題として設定するとともに、今後の学習の計画を立てる。	①	①	①	ワークシート 様相観察
8 ～ 11	自らが設定した問いに対して仮説を立て、適切な調査方法を考えさせる。 【情報収集】	・設定した課題について複数の仮説を立て、どのような方法がよいかをグループで議論し、適切な調査方法を選択する。	②	① ②	③	ワークシート 様相観察
12 ～ 15	自らが設定した問いを解決するために、調査を実施させる。【情報収集】	・地域の方々や施設職員、他学年、他クラスの生徒にインタビューやアンケート調査を行い、必要な情報を集める。	②	②	②	ワークシート 様相観察
16 ～ 21	調査の結果を分析し、ポスターにまとめ、表現させる。 【整理・分析】	・アンケート調査やインタビュー活動で得た新たな情報や、外部講師による講話を通して記録したことを整理・分析する。 ・伝えたい情報が明確になるように、ポスターに整理・分析した結果をまとめる。		② ③	②	ワークシート 様相観察 ポスター
22 本 時	ポスターにまとめた内容を聞き手の理解が深まるよう工夫しながら説明させる。 【まとめ・表現】	・作成したポスターを使って、グループ毎に設定した課題についてのポスターセッションを行う。 ・発表内容について参観者へアンケートを行い、コメントをもらう。		④		表現物 様相観察
23	活動を通した振り返りをさせ、新たな疑問を抱かせたり、これからの自分について考えさせたりする。 【まとめ・表現】	・単元全体を振り返って、自己の成長や学習したことを基にして「平和な世界とこれからの自分」について、振り返りシートに書く。	③	④	③	表現物 ワークシート

7 本時について

(1) 目 標

平和という大きなテーマのもと、生徒自らが設定した問いに対して行った調査活動の結果をまとめたポスターを、聞き手の理解が深まるように工夫しながら説明することができる。

(2) 準備物

タブレット、ポスター

(3) 評価規準

観点	評価規準	具体的な生徒の姿	
思考・判断・表現	自ら設定した問いについて、目的や相手に応じて自分自身の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	A	聞き手の表情を見ながら、ポスターの内容に説明を加えたり、かみ砕いて説明したりして、聞き手の理解が深まるように工夫しながら説明している。
		B	ポスターの内容に説明を加えたり、かみ砕いて説明したりして、工夫しながら説明している。

(4) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価基準・評価方法
導入	1. 本時の学習内容を確認する。	・これまでの学習でまとめたポスターを使って、ポスターセッションによる発表を行うことを確認する。	
	本時のめあて: 聞き手の理解が深まるように工夫しながら説明することができる。		
展開	2. ポスターセッションを行う。 (1) ポスターセッションの流れと注意事項を確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ポスターセッション発表のコツ</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 何について発表するのかを明確にしておく。 ② 説明は6分以内を目安にまとめる。 ③ 質問を受けたら、簡潔に答え(「はい、ご指摘の通りです。」「基本的にはその通りですが、少し訂正したい点もあります。」など)その上で補足を続ける。 ④ 相手がどのくらい理解しているかを意識して、それにあつた説明を心がける。 ⑤ メリハリのある、ポイントを強調した話し方を意識する。 </div>	
	(2) 各ブースに移動して、ポスターセッションを行う。(1回目8分程度)	・6分程度の説明のあと、2分程度の質問タイムを取る。	【思考・判断・表現】 自ら設定した問いについて、目的や相手に応じて自分自身の考えをまとめ、適切な方法で表現している。 (表現物、様相観察)
	(3) 各ブースに移動して、ポスターセッションを行う。(2回目8分程度)	・発表したグループは簡単に振り返りをさせ、次の発表に備える。	
	(4) 各ブースに移動して、ポスターセッションを行う。(3回目8分程度)		
	(5) 各ブースに移動して、ポスターセッションを行う。(4回目8分程度)		
まとめ	3. 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表したグループのメンバーで振り返り、どのような成果、課題が見られたかを共有する。 ・平和学習実行委員による総括を行う。 	

(5) ポスターの内容

クラス	班	テーマ	発表1	発表2	発表3	発表4
2年〇組	1班	わたしたちは自由なのか？	発表	発表		
	2班	わたしたちは自由なのか？			発表	発表
	3班	戦争はなぜ起こるのか？	発表	発表		
	4班	安全を永久的に続けるには 何をすればよいのか？			発表	発表
	5班	ストレスを無くすためには？	発表	発表		
	6班	外国での人権問題			発表	発表
2年〇組	1班	自由とは？	発表	発表		
	2班	幸せとは？			発表	発表
	3班	平和関連の作品は、 何を伝えようとしたのか？	発表	発表		
	4班	2030年までに SDGsは 達成できるのか？			発表	発表
	5班	有名ではない被爆建物を なぜ残しているのか？	発表	発表		
	6班	広島カープの第一預金 がもみじ銀行である理由			発表	発表
2年〇組	1班	戦争が起こるようになって 日本への影響	発表	発表		
	2班	自由とはなにか？			発表	発表
	3班	悪い人間関係の定義とは？	発表	発表		
	4班	日常とは？			発表	発表
	5班	人それぞれの幸せについて	発表	発表		
	6班	幸せの定義とは？			発表	発表